

Topics of the month

4月設立の新会社・サステナブルスケールの
“ものさし”のベースとなる

新国富指標について

2021年5・6月合併号の
記事はこちら

前号で、サステナブルスケールはSDGsの評価方法として国連で評価されている「新国富指標」研究における世界的な第一人者である九州大学の馬奈木主幹教授を取締役に迎え、SDGs評価における新しい“ものさし”を創り、SDGsの取り組みを適切に評価・発信し、地域社会の健全な成長に貢献することを目指していくとお伝えいたしました。

今回は、新しい“ものさし”を創るうえでベースとなる「新国富指標」についてご紹介いたします。

これまで、マクロ経済指標として重要な役割を果たしてきたGDPは、経済・社会における環境・気候変動問題や福祉・教育・健康問題への意識の高まりに伴い、総合的な経済価値を測る上で限界があると指摘されています。例えば、森林減少が土砂災

害や水質悪化を招いても、そこで発生した損失はGDPには算入されません。タバコを吸うことで売上がGDPに計上されますが、本人や周辺の方々の健康被害のマイナス分は計算されません。

そういった課題を内包するGDPを補完すべく、環境や教育・健康、経済インフラなど、目に見えない非財務的な様々な価値を金銭（貨幣）価値に換算することで、経済・社会の持続可能性（＝サステナビリティ）を総合的に評価できる手法として、ノーベル経済学賞受賞者である故ケネス・アロー教授やブループラネット賞受賞者のパーサ・ダスグプタ教授といった現代経済学の権威である方々によって開発された指標が「新国富指標」です。

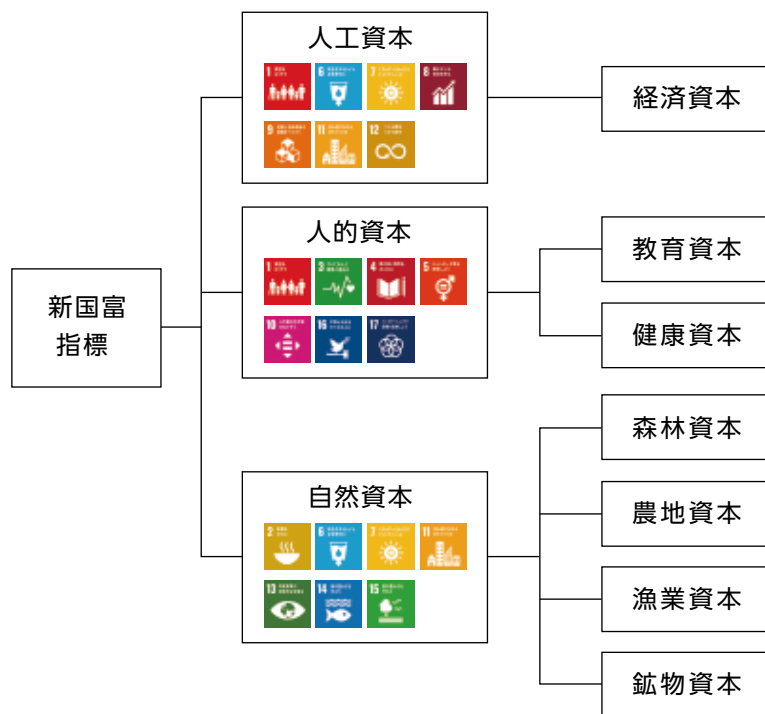
「新国富指標」はSDGsの個別目標とも密接に結びつく、経済的な価値を表す

「人工資本」、人の価値を表す「人的資本」、持続的な利用や管理が必要となる資源や自然の価値を表す「自然資本」から構成され(下図)、経済から環境、健康まで包括的に網羅する指標で、現在、SDGsの達成度合いを捉えるための評価指標として中心的な役割を期待されています。

もちろんこうした目に見えない非財務的な指標を正確に把握することは難しいですが、近年の様々な科学的な計測手法や、それぞれの資本推計のための経済学的手法の発展に伴い、実現可能となりました。例えば、教育経済学のストック推計手法の発展により、より高い教育を受けることによる生涯賃金への影響を社会・経済における現在価値、いわゆる「人的資本」として算出することができます。

持続可能な地域社会および地域企業の実現に向け、サステナブルスケールでは、九州大学の馬奈木主幹教授との共同研究

新国富指標を構成する資本の全体像



により、この「新国富指標」の考え方をベースとして、地域企業におけるSDGsへの取り組みを定量的に評価できる新しい「ものさし」を創ることで、「SDGsサステナブルな経営実装を促し、地域企業におけるSDGsへの取り組みを後押ししてまいります。

商号 株式会社サステナブルスケール
 本社所在地 福岡市中央区天神二丁目13番1号
 代表者名 藤善 匡
 事業内容 SDGsの普及、評価・分析、コンサルティング
 設立年月日 2021年4月1日
 資本金 3億円
 株主 FFG (持株比率100%)



国連「新国富報告書」代表

馬奈木 俊介

九州大学大学院工学研究院 教授、総長補佐 (SDGs 担当)
 九州大学都市研究センター長・主幹教授
 国連「新国富報告書」代表
 日本学術会議会員&サステナブル投資小委員会 委員長